

開催日	7月25日(月)	会場	音別小学校 体育会
時間	18:00~19:05	参加人数	29名
計画位置付け	令和9年度 義務教育学校(音別小学校・音別中学校)		
質問	<p>Q1 こういう流れの中、ある程度容認しながら、みんなで学校を作っていかなければならないと強く思っており、音別小学校・中学校を地域で守っていく上で、説明のあったやり方をしていくというのは間違いのないことだと思う。これから先、地域がどの様になっていくか我々も分からない中で、私としては義務教育学校化を積極的に進めることで、地域とより一体的に児童を育てていけるのではないかと思う。地域の有り様がどうなっていくのかということ前提とした中で、我々が住んでいるまちに、この学校をどの様に残していくのかという相談をさせて頂き、一緒にどのようにこの地域を守っていくのかという話しの中に市教委も入って頂ければありがたい。校舎の横に川が流れているが、防災の観点も考えてもらわなければならないと考えており、校舎の立地について、その点も含めた検討をお願いしたい。</p>		
回答	<p>A1 音別小学校・中学校にはコミュニティ・スクールもあり、地域の方に学校運営について積極的にご参加頂いていることに関して感謝申し上げます。校舎については、既存の校舎を整備して使用することを考えており、小学校・中学校どちらの校舎も使用は可能であるが、それぞれが避難場所に指定されているため、行政センターの担当課と協議をしながら進めていきたい。防災の観点も含め、校舎選定について皆さまのご意見も頂きながら決定していきたいと考えている。児童生徒数の想定では、小学校も中学校も教室数が足りると考えているが、実際に義務教育学校の開校3年ほど前に準備協議会を開いて地域の皆さまにも学校の運用について、ご意見を頂くので、もしそこで教室が足りないなど不足があれば、増築も視野に入れて考えていく。</p>		
質問	<p>Q2 義務教育学校になった場合、はじめは学級担任制で、5年生からは全教科担任制に変わるとの説明だが、これにより、現状負担が大きい先生方の問題はクリアされるのか。また、現在不登校の割合はどの位か。</p>		
回答	<p>A2 阿寒湖義務教育学校では5年生から全教科担任制を取り入れているが、音別地区で義務教育学校ができた場合、5年生から全教科取り入れることが出来るかは配置される教員の所持免許で決まるので、他都市の義務教育学校の事例も参考にしながら、教科担任制についてどの学年から取り入れるか検討することになる。教員の負担について現状では小学校の先生は学級担任制でずっと教室にいるためほとんど空き時間がないが、教科担任が入ることによって、小学校の先生も空き時間を確保することが可能となる。不登校の割合については、令和2年度は全体で389人であり、中学生では約7%となっている。小学校は中学校と比べると少ないので、小学校と中学校を合わせると4%くらいになっている。義務教育学校は子ども達を9年間見ることが出来るので、スムーズに学年が進んでいくことが期待できる。</p>		

質問	Q3 先ほど複式学級の話が出たが、本当に先生方は大変だと認識している。資料にある児童生徒の推計を見ると、令和10年度までは、現状を維持できると思うが、これ以上少なくなってきたときの先行きや、音別地区の飛び地合併の地であるという特殊性について心配がある。また、音別小学校は間もなく120年を迎えるが、校歌が無くなってしまわないかということも心配で、地域を巻き込み、音別なりの義務教育学校というものを考えてほしい。
回答	A3 義務教育学校の設立にあたっては準備期間に地域の方のご参画をいただいて色々と決定していくので、その際は積極的なご発言を頂きたい。校歌・校章などについては、開校に向けての協議会で検討していくこととなり、新しくする学校もあれば、阿寒湖義務教育学校では、阿寒湖小学校の校歌・校章を使用しており、阿寒湖小学校歌の歌詞に、阿寒湖学校としていることからそのまま使用できるとして小学校校歌を残した経緯がある。義務教育学校の場合、学校名として「義務教育学校」の他「学園」「小中学校」もある。そうした名前も今後の協議事項の一つである。
質問	Q4-1 現在の小学校と中学校が義務教育学校としてひとつになった時に、教員の数は何人になるのか。令和10年度の児童生徒の推計では、小学校で3クラス、中学校で3クラスになることのであったが、これが義務教育学校になれば先生の加配などを用いて1学年1クラスで合計9クラスになることはあり得るのか。また、現状において、音別地区で小中連携の取組として行っていることがあれば教えてほしい。
回答	A4-1 教員の数は、基本的に小学校の基準教員数と中学校の基準教員数を足したものとなり、養護教諭も2人、学校事務も2人の配置となる。全学年を単学級に出来るということをご申し上げることが出来ないが、阿寒湖義務教育学校では、義務教育学校にしたことによる1名分の校長先生の枠を一般教員に当て、また、統合の際の加配により2名の教員を確保できたことにより、複式学級が2クラスのところを1クラスにしている。また、小中連携について今全市の小・中ジョイントプロジェクトという取り組みを行っており、小中連携協議会を立ち上げて、先生方が学力向上部会、特別支援教育の部会、不登校の部会などに入って、小学校と中学校がどの様に連携をすれば良いかという話し合いを進めている。音別地区は市内でも小中連携が進んでいる地域であり、中学校の定期テストの勉強期間一週間を小学校では読書週間に位置づけたり、中学校の部活の無い日はノーゲームデーにして音別小学校と音別中学校一緒に取り組んでいる。
質問	Q5-1 義務教育学校から普通の小学校や中学校へ転校した場合のケアは何か考えているか。
回答	A5-1 例えば義務教育学校になっても5年生では5年生の教育課程を学ぶこととなり、教育課程が変わることはないので、転校をしても義務教育学校による問題は無いと考えている。
質問	Q6 義務教育学校により中1ギャップへの対応が可能になっても、今度は高1ギャップが生まれないかという心配があるので、9年間の中でそういったことも見据えた対応をしてほしい。
回答	A6 環境が変わった際、不適応を起こすことはどの年代でも考えられ、高1ギャップという問題が別に出てくる可能性もあるが、我々が今危惧している点は、児童生徒にとって環境が大きく変わるのが中学校であり、その中学校で不登校となる事例が多く出ていることである。そのような事例を少しでも減らすためにも、小学校、中学校の教職員が一丸となって子どもの成長を見守ることが必要であると考えており、今回施設一体型の義務教育学校の設置という考えに至った。

質問	Q4-2 仮に音別の子ども達が更に減った時に、自治体を越えて子どもが学校に通うということはあるのか。子どもにとってどうあるべきかが大事だと思っているので、教育委員会としてもそうした観点で考えてほしい。
回答	A4-2 少なくとも近隣管内では自治体を越えて子ども達が通っている事例はない。恐らく道内でもないのではないかと。学校設置の義務は、各市町村にあるので、責任をもって子ども達の教育環境を整えていく。
質問	Q5-2 利用しなくなる校舎の跡利用をどのように考えているのか。また、今後の検討にあたっては、地域協議会でも説明してもらい、地域のコンセンサスを得られるように進めてほしい。
回答	A5-2 現時点では、小学校と中学校どちらの施設を使用するか決まっておらず、確定した計画ではなく、たたき台のため跡利用は決まっていないが、今後の検討について、地域の声をお聞きしながらともに進めて参りたい。
質問	Q7 中学の部活動について、義務教育学校では1校でチーム編成ができない場合に、例えば大楽毛中学校と合同チームを組むといったこともあり得るのか。
回答	A7 部活動については、これまでと同じように進めることも可能であるし、計根別学園では小学校3、4年生から部活動に参加しているところもあるので、開校に向けて義務教育学校を作っていく中で協議していくことになる。